

市町村合併に関する基本的な考え方

9月定例市議会の冒頭、小林市長は、市町村合併議論の必要性および背景や枠組み、合併方式など、市町村合併に関する基本的な考え方を表明しました。

市町村合併議論の必要性および背景

平成の大合併が叫ばれる中、全国的には1,400を超える市町村が法定協議会に参加して合併問題を議論しています。

先々の任意協議会においては、11市町村の枠組みによる法定協議会への移行が白紙となりました。

その後も、住民も含め本市に文書などによる合併協議の要望が寄せられたのは、富里市・酒々井



地域の核となる成田空港

町・栄町・下総町・神崎町・大栄町・栗源町・多古町・横芝町・芝山町の1市9町に上ります。

成田地域においては、地域間競争の時代を迎え、国際空港都市としての「格」の向上、一体的な騒音対策や土地利用策、空港および周辺地域の潜在力の活用、交通網の整備などの課題から合併議論の展開が考えられます。

一方、財政力低下に伴い行政サービスなどへの影響が懸念されますが、今後、合併の方向性が確立次第、精緻なデータを分析のうえ、財政計画の推計や将来展望を描くとともに、行政全般にわたっての検証を重ね、調整していく必要性があると考えます。

市町村合併については、本市にとつても避けては通れない、大変重要な行政課題の一つであるとの認識の下、6月定例市議会以降もさまざまな議論・検討を重ねてきました。

その結果として、9月定例市議

会冒頭において、合併に対する本市の基本的な考え方を明示しました。

枠組み

本市を中心とする市町村合併を考えるとき、まずは、日常生活圏の一体性について十分配慮する必要があると。また、航空機による騒音対策などの共通する行政課題もあり、空港と地域が共存する以上、空港圏としての結びつきも考えられます。

「こつた」ことから、成田市に隣接する「生活圏」と「空港圏」の合致する地域である、成田市・富里市・下総町・大栄町・多古町・芝山町の2市4町を現時点での最大の枠組みとして考えています。

なお、枠組み内の合併協議の方式については、関係市町との協議の進展や市民・議会の意向などにより、個別協議の場を設定することも検討していきたいと思えます。

合併方式

合併の方式については、新設合併と「編入合併」の二つの方式がありますが、周辺市町と財政状況や行政サービスの状況を比較すると大きな格差があり、一般的に言われているように市町村合併の必然性は周辺市町と比べて高いものとは言えない状況にあります。

「こつた」ことから、本市にとつて成田市への編入による合併であることは、合併議論を進めるうえでの前提条件です。

取り組みスケジュール

本市としては、将来に禍根を残さないよう、また、地域の特性である空港と地域の共生の観点から地域の将来を見据え、合併特例法の期限を可能な限り視野に入れながら、合併議論を展開すべく最大限努力していくことが、成田地域の中心都市としての立場から望ましいものと考えています。

市民の意向集約の方法

市町村合併は、自治体の根幹にかかわる重大な行政課題であり、市民・議会の意向を確認しながら取り組むべき問題であることから、的確な情報提供に努めるとともに、きめ細かなタウン・ミーティングの開催や市民アンケートなどを実施することにより、市民の意向集約に努めます。

今後も市民のみなさんからのご意見やご要望を十分お聞きし、議会とも連携をとりながら、本市の合併に関する方向性を見いだしていきたいと考えています。



成田地域
2市4町の区域図

くわしくは企画課事務管理室
TEL 20 15000へ。